



「グリーン物流」の実現に向けてEVウォークスルートラックを導入 ～中型商用EVトラックの本格導入に向け、神奈川県藤沢市でモニター稼働を実施～

ヤマトホールディングス傘下のヤマト運輸株式会社（本社：東京都中央区・代表取締役社長 栗栖利蔵、以下 ヤマト運輸）は、環境ビジョンである「つなぐ、未来を届ける、グリーン物流」の実現にむけ、いすゞ自動車株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：片山正則、以下いすゞ自動車）が開発した「エルフ EV ウォークスルーバン」を導入しましたのでお知らせします。

記

1. 背景と目的

ヤマトグループは、1月23日に発表した経営構造改革プラン「YAMATO NEXT100」の環境ビジョンとして「つなぐ、未来を届ける、グリーン物流」を掲げ、環境や生活、経済によりよい物流の構築を目指しています。その実現に向け、車両のEV化は重要であり、これまでもヤマト運輸は日本で初めての宅配に特化した小型商用EVトラック（車両総重量3.5 t未満、普通免許で運転可）をストリートスクーター社と共同開発※し、導入を進めてきました。

そしてこの度、中型商用トラック（車両総重量3.5 t以上7.5 t未満、準中型免許以上で運転可能）のEV化に向けて、いすゞ自動車が開発した「エルフEVウォークスルーバン（以下：EVウォークスルー）」を1台導入します。

このトラックはEVであるとともに、車から降りることなく運転席から荷台へ移動できる、「ウォークスルー構造」となっており、CO₂削減とセールスドライバーの労働環境向上に寄与するものです。

ヤマト運輸は、「グリーン物流」の実現に向けて、小型商用EVトラックの導入に続き、中型商用EVトラックの本格導入に向けて、神奈川県藤沢市でモニター稼働を実施いたします。

※2019年11月19日ニュースリリース「日本初、宅配に特化した小型商用EVトラックを導入」

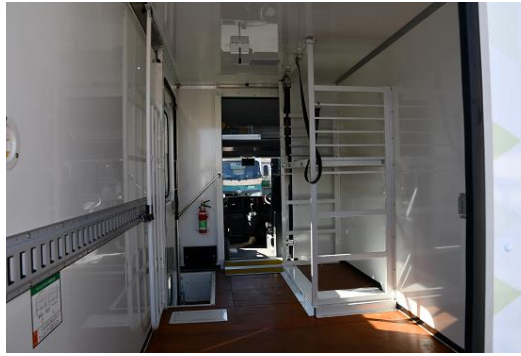
URL：http://www.kuronekoyamato.co.jp/ytc/pressrelease/2019/news_191119.html



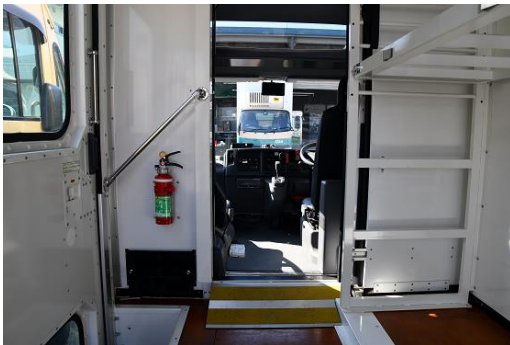
【トラック後方からの視点①】



【トラック後方からの視点②】



【荷台から運転席への視点】



【運転席から荷台への視点】



2. EV ウォークスルーについて

(1) 導入により期待される効果・価値

- ①CO₂の削減、大気汚染物質の削減、EVの普及に貢献
- ②「ウォークスルー」構造によるセールスドライバーの作業負荷軽減

(2) 開発メーカー

いすゞ自動車株式会社

(3) 車両スペック

- ①定員：2名
- ②車両総重量：4,970kg
- ③最大積載量：1,850kg
- ④最大出力：83kw
- ⑤最大トルク：305Nm

3. 導入地域と台数

- (1) 導入地域：神奈川県藤沢市
- (2) 導入台数：1台
- (3) モニター開始日：2月14日

4. 今後について

ヤマト運輸はEVトラックの導入を引き続き推進し、CO₂削減や大気汚染防止に貢献していきます。

また「つなぐ、未来を届ける、グリーン物流」を体現するべく、最適な低炭素車両の開発と導入、再生エネルギー利用、スマートモビリティなど物流の最適化に向け取り組んでまいります。